

## 2011年世界精神医学会地区会議 高雄大会報告記

五十嵐 健史<sup>1)</sup>, 山 嵯 武<sup>2)</sup>

精神医学会地区会議高雄大会が、2011年11月3～5日の3日間、Pedro Ruiz 大会長のもと行われた。開催地は台湾高雄にあるザ・スプレnder高雄だった。ここは85階建てのビルで高雄のランドマークとして知られる場所であった。18に分けられているWPA Zoneのうち、今回はZone 17の地区会議であり、台湾精神医学会との合同開催でもあった。「Asian Mental Health: Current and Future Perspectives」というテーマのもと、さまざまな民族や国籍の精神科医が一堂に会し、大変な盛り上がりを見せた会であった。今回の高雄大会の演題は、9つの基調講演と28のシンポジウムなどが行われ、いずれの会場も盛り上がりを見せていた。台湾の国土は、およそ3万6千km<sup>2</sup>と九州と同程度の大きさで、人口は約2300万人の国だが、逆にそれが医療者と政府の連携を密にし、当事者も交えた地域を基盤にしたシステム作りに取り組んでいるとのことであった。

本学会では若手精神科医のシンポジウムとして、精神科卒後教育のシンポジウムと症例検討のシンポジウムがあった。日本若手精神科医の会(JYPO)から2名が各々シンポジストとして参加し、山嵯は後者で発表した。この2つのシンポジウムで台湾、香港、中国、韓国、マレーシア、シンガポール、カンボジア、ベトナム、インドネシア、タイ、モンゴル、インド、オーストラリア、イギリスなど15ヶ国の総勢22名の若手精神科医

と議論し世界の現状や今後の改善点などを知ることのできる多くのことが学べた。シンポジウム前に各国の若手精神科医と交流し海外で発表経験があり本学会でも講演や座長を務めている複数のJYPOメンバーの励ましや協力もあった。さらに、他国の若手の優秀さや誠実さに刺激を受け、日本で臨床をやっている当たり前に感じていることが世界ではそうではないという気づきは貴重な体験となった。

五十嵐は、2日目に行われたsleep medicineのシンポジストとして参加した。『A clinical and polysomnographic study of childhood-onset restless legs syndrome with hyperactivity』という演題で、小児期発症のレストレスレッグス症候群(RLS)についての治療経過報告したものであった。発表当日は、台湾、韓国などのADHD(注意欠如・多動性障害)を専門としている医師からの質問もあり、シンポジウムが終わった後も会場の外で、RLSとADHDにまつわる多動性についてディスカッションするなど海外の知見を得ることができたことが大きな収穫であった。若手同士知り合うことで、今後の学会や研究にもつながりそうな交流が持てたと思う。

総会でのdisaster psychiatryのシンポジウムでは、やはり日本の東日本大震災後ということもあり、今後の復興を見据えた活発な意見交換が行われていた。

なお、今回のWPA地区会議は、Tun K Bastaman 大会長のもと、2012年9月13～15日にインドネシアのバリで開催される運びとなっている。今回の地区会議同様、若手精神科医のプログラムも開かれる予定となっている。

著者所属：1) 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

2) 特定医療法人社団聖美会多摩中央病院精神科

受理日：2012年4月7日